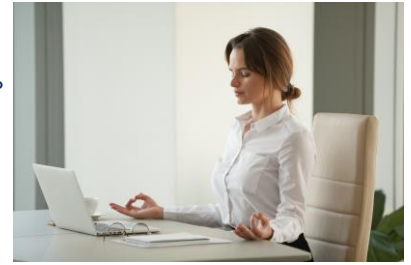


(9) 執着型タイプ

中庸指標は俯瞰できる考え方ができることが最終目的になります。



① 依存+理論+感情+強い

1つのものに執着するタイプ、才能気質がある。喜怒哀楽、依存的概念があるため、第一印象はかわいらしく接するため良いのですが、依存が強いため、その人に執着しすぎると危険になることがある。二面性もあるため、ギャップを取り除くことが重要である。常に俯瞰することを心がけよう。感情の表情がわかりづらく、突然怒り出す時もあれば笑っている時も実は怒りを感じている時もある。マイペースというか自分が分からないという現象が起きている。

好き嫌いが激しく、好きなこととできることのバランスが崩れると継続しなくなる。嫌いなことの免疫、できないことの訓練をすることでギャップを無くすとバランスが整う。

潔癖症などところもあり、恐怖心を持続してしまうと神経症の強迫観念まで発達するので自律神経を整えるマインドフルネスや禅などがお勧めする。才能と集中力はあるので専門家として才能が開花するでしょう。

それにまず、自立すること、今、嫌なこと、苦手なことでも、2年後はそれが知識、スキルの構築と認識することでやがて好きなことになるという思考がうまれるので今という時空を未来に向けて俯瞰することに心掛ける。

(嫌なことも将来の幸せのためと思って忍耐強く続けるという意味)

人を信じることは自分を本当に好きになるとことである。自分のミッション（役割）、存在感を感じることができれば好き嫌いという価値観がなくなる。

依存 # 好きな執着 # 二面性 # 才能 # 潔癖症 # 集中力 # 嫌なことは飽きっぽい

中庸的アプローチ (9タイプ共通)

自我が強くなったら利他主義を、依存が強くなったら、自分を大切に、行動し過ぎたら、よく考え、考え過ぎたら行動する。感情的になり過ぎたら冷静に、合理的になり過ぎたら人間味あふれる素直な気持ちを表現する。人を思いやる心、見えない刃（魅力的プライド、捨てるプライド）を持ち、バランスの良い考え方を継続する。しかし、バランスばかり考え過ぎると、自分を見失うこともあるので、あなたはあなたらしく**ありのまま**に生きることである。あなたを好きになる、嫌いなところもあなた自身です。そして他者を認め、俯瞰する思考を持ちましょう。なかなかできないかもしれませんが。だって人間だもん！